様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：６４４０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ２３１３２

研究課題名（和文）社会変化と民俗特有の病いの変容：韓国と台湾の産後の病いに対する比較研究

研究課題名（英文）Social change and the transformation of postpartum folk illness: comparative study between Korea and Taiwan

研究代表者
諸　昭喜（Che, Sohee）

国立民族学博物館・グローバル現象研究部・助教

研究者番号：８０８４８３５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、社会の変化に直面した民間（伝統）病の代表として、韓国と台湾の産後の病気の語りに注目した。台湾や韓国では、西洋医学と東洋医学の両方を同等の専門医療として認めてきた既存のシステムを、両者の統合を意図した政策に変えようとしている。そのため、特に韓国東洋医学では、疾病分類を西洋医学のものに統合し、東洋医学は従来のパラダイムを西洋医学に合わせるように標準化することを含め、転機を迎えている。東洋医学におけるこの病気は、韓国では「産後風」、台湾では「月子病」と呼ばれている。一般に広く診断され、治療されてきたこれらの産後の病気は、現在再定義と変化に直面している。

研究成果の学術的意義や社会的意義
人々は病と病の治療について経験的に蓄積された知識を持っているし、その知識は多くの部分は歴史的に形成されて、文化的背景の中で変化しながら構成される。病に対して理解することはその社会の文化を理解することの核心的要素になりえる。文化による病気の認識 と治療の変化に対する可能性は、同時的分析として同時代の多くの文化を理解することができる可能性を開き、通時的でも疾病の歴史的変化に対しても論ずることができるようになる。したがって疾病の認識と治療の慣行を把握することは一つの社会が共有する過去と現在の文化を理解するのに重要なだけでなく、未来の 再構成のための起草作業になった。

研究成果の概要（英文）：This study focused on South Korean and Taiwanese postpartum illness narratives as a representative of folk (traditional) illness in the face of social changes. The existing system in Taiwan and South Korea, which has recognized both Western and Oriental medicine as equally specialized medical care, is being changed to a policy intended to integrate both systems. Therefore, Korean Oriental medicine in particular has integrated the classification of diseases into that of Western medicine, and Oriental medicine has been forced to standardize its conventional paradigm to match that of Western medicine. This illness in Oriental medicine is referred to as “産後風postpartum wind” in South Korea and “月子病” in Taiwan. These postpartum illnesses, which have been generally diagnosed and treated broadly, are now facing redefinition and change.

研究分野：人類学

キーワード：病いの変化　台湾　韓国　産後風　月内風　東洋医学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

全世界に存在してきた伝統医学の存在に対して、世界保健機関(以下 WHO)は 2005 年から伝統医学の標準化プロジェクトを開始した。このプロジェクトには日本、中国、韓国が中心になって、去年 2018 年 6 月「国際疾病分類の第 11 回改訂版(以下 ICD-11)」を公表するようになった。ICD-11 の第 26 章として初めて記載されるようになった伝統医学部分は「Traditional Medicine Conditions Module1」で、この Module1 の内容は東洋医学の分類である。26 章は二つのカテゴリに分けられて「伝統医学の病(traditional medicine disorders)」、「伝統医学の証（traditional medicine patterns)」と表現されている。中国と韓国では、西洋医学と東洋医学の両方を等しく専門的な医療と認めてきたこれまでの制度から、両体系の統合を目指す政策に転換が図られている。そこで、特に「韓方（韓国の漢方)」は疾病の分類を西洋医学の疾病分類に統合し、そこに当てはまらないものを特別の U コードであらわすようになったため、韓方医学は従来のパラダイムを西洋医学と合致させるように変更する標準化の必要に迫られている。それで韓方の中、今まで一般的に広い範囲で診断され治療されてきた産後の病が再定義と変更を直面するようになった。一方、東洋医学文化に一般的に認められている産後養生の必要性の根拠であり、不安の対象になっている産後の慢性疾患は今まで患者の症状を中心に研究され、治療法に焦点を当ててきた。東洋医学上のこの病の存在は中国の宋代の古典医書が重要な診断根拠になって口伝えてきた。しかし、実際症状を訴えている女性がどんな病因で病が罹患するようになったと診断しているか、どのように自分の症状を解釈しているかに対する病の語り分析は十分研究されていない。そこで、本研究は社会的な変化を直面した病の代表として東洋医学上の産後の病にフォーカスを置いて、韓国と台湾の二つの病いの実態を比較した。

2. 研究の目的

本研究は、病いの変容に対する医療人類学的比較研究で、歴史的に東洋医学上の同じ起源を持つ産後の病いが、現在台湾の中医学と韓国の漢方（韓方）において異なる様相で発症する現象を分析する。文化特有の病いと社会・文化との関係を、患者の語りに焦点を当てて分析することを主たる目的としている。研究対象は産後の女性に現れる症状であり、多くのアジア文化圏では産後養生の仕方によってその後の健康状態のよしあしが決まると考えられていて、実際、中国、台湾、韓国の多くの女性が出産後に罹患する慢性疾患の原因を産後養生の不十分さにあると考えていると報告される。慢性症状を定義する病名はそれぞれの文化によって違うが、本研究の研究対象は韓国と台湾に産後に罹患する民俗特有の病いに規定した。この研究は、1)現在にも多く存在している患者の症状と痛みを具体的に分析する基礎調査、2）文化の主要な価値観が出産と女性の体を介して投影されていることを明らかする文化研究、3）病いの社会的変容と構築を示す病いの社会科学研究を目指している。

3. 研究の方法

本研究の対象になる地域は韓国と台湾で、異なる文化による産後の病の構築・多様性についての民俗学的、人類学的研究であり、各国において実際の患者と治療者との聴き取り調査が主になる予定だったが、2019 年 2 月コロナ禍、2021 年 12 月オミクロン株の発生のため、台湾の場合は直接訪問できず、調査は日本にいる台湾研究者を通いてオンライン調査をお願いした。韓国でも、自宅訪問やインタビュー調査ができなくなり、オンラインを通して、患者に関しては若い世代を中心にインタビュー調査を行い、調査は漢方の専門家グループを主にメールとオンラインで行った。そして、聞き取り調査と共に国家政策、統計、東洋医学、産後儀礼に対する文献調査が主になった。両方とも治療者 4 人（漢方医と民間治療者)、女性(患者含め)10 人のインタビュー調査を行い、その資料と仮説などを各国の研究会、学会で発表して情報交流と検討させた。

4. 研究成果

1)産後ケアを大事にするようになった現在でも産後の症状を訴える患者たちは常に存在するが、その語りの内容は世代によって異なる。近代化以前の多くの女性は、栄養不足と労働に起因する慢性衰弱状態であり、さらに頻繁な出産と育児のために苦しんでいた。近代化の時期になると、家族だけでなく地域と国のため、身体的、精神的な苦痛に耐えていた。また、現代の女性はライフを構成する主な活動領域が変化したが、さらに負担になった出産と育児の責任感がこの産後の病いの語りから生き生きと表れている。症状の解析の中身には否定的記憶、人生の苦難を表現する方法として、身体の慢性的な痛みという形が文化的に許容される側面が見える。伝統医学における病いが時代とともに変容するさまを、患者自身の症状に対する解釈の変化も含めて明らかにする。

２）西洋医学のパラダイムにおいて、東洋医学の疾病名は失われる傾向があり、「〇〇症、〇〇症候群」という症状で呼ばれる傾向が強まっている。その中、産後の病は、韓国で「精神病気化」、台湾では免疫力に関する「身体症状、老化」に間れされて解釈されている差が見えた。産後の病に関しては、政府からの出産関連政策と漢方の言説形成、産後ケアサービス業拡大の影響があり、産後養生の重要性がかなり認められる点も有意味だった。

「国と文化、時代にのみ発見される病気についてどう理解するか」という根本的な問題意識から、産後ケアや病いにおける複数の現場でのエスノグラフィと比較 研究をしていた。これまでは研究の中心は、文化特有の病いと社会・文化との関係を、患者の語りに焦点を当てて分析することを中心に行ってきた。この科研で は 2 つの側面で研究を拡大させた。

第一に、韓国という地域の研究テーマを多様化し、産後風や冷え症の治療に対する民間療法（ヨモギ）について取り上げ、日本語で出版される。その本では、民俗病の歴史と近代化、病いのイディオムから見る妊娠と産後の体、共有されている病いの語りと時代の反映、漢方の中で構築される民間の病いというそれぞれのテーマで、伝統医学の病いがバイオメディカルなパラダイムとの競合関係の中でどのように変化するかを主に分析した。

第二に、産後の文化的様相について台湾の研究にも地域を広げ、台湾での中医学の受容と産後の症状についての免疫力に関する身体症状などの解釈、出産奨励政策について研究を進め、その比較研究に関しては、Handbook of Global Health に投稿して、編集と修正を得て 2023 年刊行を予定している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Sohee Che
２．発表標題 Social Change and the Transformation of Folk illness: A Comparative Study of Postpartum illnesses in Korea and Taiwan
３．学会等名 2020 Annual Conference of the Taiwan Society for Anthropology and Ethnology（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Sohee Che
２．発表標題 Construction of Medical local knowledge and Health seeking behavior: A Case Study of the Covid-19 Situation in Japan (Kinki Region)
３．学会等名 2020 Annual Conference of the Korean Society for Cultural Anthropology（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Sohee Che
２．発表標題 Changing concepts of illness: A comparative study of Hieshsyo(susceptibility to chills) in Japan with Sanhupung (symptoms of postpartum illness) in Korea
３．学会等名 Anthropology of Japan in Japan (AJJ)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 諸昭喜
２．発表標題 産後三・七日間の変化―韓国の伝統慣習から産後ケア施設まで
３．学会等名 第515回みんぱくゼミナール
４．発表年 2021年

１．発表者名 諸昭喜
２．発表標題 産後風に関する医療人類学的研究
３．学会等名 韓国ソウル大学BK21教育研究団海外専門家招待講演（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 諸昭喜
２．発表標題 病の語りにさぐるー産後風と韓国女性の生活
３．学会等名 国立民族学博物館友の会講演会
４．発表年 2021年

１．発表者名 諸昭喜
２．発表標題 女性疾患とヨモギの活用に関する医療民俗誌
３．学会等名 韓国・朝鮮文化研究会研究例会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計2件

１．著者名 諸昭喜 外12名	４．発行年 2021年
２．出版社 Humanitas, Seoul, Korea	５．総ページ数 352
３．書名 病気になると見えるもの:韓国社会の痛みに関する人類学報告書	

１．著者名 Sohee Che 外	４．発行年 2023年
２．出版社 Routledge, New York and London	５．総ページ数 未定
３．書名 Handbook of Anthropology and Global Health	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関